

4.8.2 教員組織（運営体制）

<2003年度に設定した目標>

1. 「委託研究員制度」（研究主題および期間を限定）を導入する。
2. 複数の研究プロジェクトを設定する。
3. 研究プロジェクトへ学外研究者の参加を計る。
4. 活動の迅速な報告のため、<ニューズレター>を発行する。
5. 研究成果をタイムリー且つスピーディに公刊する。
6. 宗教センター改築に伴い、共同研究室を設ける。
7. 公募研究費獲得の可能性を探る。

（現状の説明）

RCCは、センター長、センター副長2名、主任研究員4名と研究員若干名で構成されている。規程上、センター副長のみが専任教員であり、他は兼任教員である。評議員会（センター長、センター副長の他、主任研究員・神学部教授会・学部宗教主事・キリスト教主義教育委員会から代表各1名、大学教務副部長、学長が任命した教員の計9名で構成）は、管理・運営における基本的方針について責任を負い、日常の企画・活動は毎月開催するセンター長室会（センター長、センター副長、主任研究員の計7名）で運営している。これらのメンバーで、設立理念の実現に向けて研究・教育活動を展開し、2004年度後期からは、総合研究テーマに「キリスト教と平和戦略研究」を掲げ、5年間の研究期間を定めた。そして、2005年度文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業に申請すべく研究員を再編し、学外から研究者3名の招聘を予定し文科省へ申請した。申請は残念ながら不採択となり、計画は縮小せざるを得ない結果となったが、研究テーマ（平和の問題）は継承して、2005年度を開始した。

現在、宗教センターを改築中（竣工後は吉岡記念館と呼称し、神学部、宗教センター、人権教育研究室およびRCCが入居する）であるが、建築ワーキンググループで建物の理念、設計の議論を重ね、「出会いの場」というコンセプトの下、学生・教職員、一般人が出入り可能なラウンジや共同研究室を設置することにした。

（点検・評価の結果）

1. 「委託研究員制度の導入」は進んでおらず、今後、検討の余地を残している。
2. 「複数の研究プロジェクトの設置」は、2005年度から①「キリスト教と平和構築」（代表・神田健次センター副長）、②「聖餐の理論と実践」（代表・打樋啓史社会学部助教授）、③「聖典と今日の課題」（代表・樋口進センター副長）を立ち上げるなど（2003年に発足した「スピリチュアリティと宗教」と併せて4プロジェクト）円滑に進んでいる。
3. 「学外研究者の参加」は、2005年度RCC客員研究員として青山学院大学から大庭昭博教授を招聘することになっており、進んでいる。
4. 「ニューズレターの発行」は、2003年度3回、2004年度3回刊行と順調に成果が現れている。

5. 「研究成果の公刊」は、2004年度は研究紀要の他3冊公刊することが出来、順調に成果を上げている。
6. 「共同研究室の設置」は、順調に進んでいる。
7. 「公募研究費の獲得」は、現在のところ遅れている。

(改善の具体的方策)

センター副長（1名）が専任教員である以外は兼任教員である点に運営・体制上の問題点を含有するものの、1997年の創立以来、意欲的に研究・教育にエネルギーを傾注している。

2006年4月に吉岡記念館が完成するのに伴いRCC共同研究室が設けられること、および2007年にはRCC創設10周年を迎えることを契機に、目標の1「委託研究員」について規程を整備する。目標の7「公募研究費」については、2006年度以降も引き続き科学研究費補助金（文部科学省）や外部財団へ申請し研究費の獲得を計る。